

Ⅶ 検査



1. 検査をする理由

- リウマチの状態や治療の経過を知るため。
- 薬の副作用をチェックするため。
- 合併症を知るため。

2. 患者さんに検査データをみてもらう理由

検査データを理解していただくことによって、ご自分のリウマチの状態を知り、さらに薬の副作用の早期発見を心掛けることができるようになります。薬により免疫力が低下している場合などは、感染予防に気をつけていただきたいのです。また、血液検査の値によって自宅での食事や生活の面で気をつけることがわかります。



3. 血液検査以外の検査

血液検査以外に主に下記の検査を行います。

- レントゲン：肺炎、関節の破壊・変形の程度を知るため。
- CT：間質性肺炎などの診断のため。
- 骨密度：骨粗鬆症の診断、骨折のしやすさを評価するため。
- 胃カメラ：胃潰瘍の有無やアミロイドと呼ばれる不要なたんぱく質が胃粘膜についていないか確認するため。

4. 血液と尿検査のデータの見方

検査項目	日本語訳	検査の意味	ポイント	
WBC	白血球	免疫力が低下していないか（値が減少）、感染が起きていないか（値が上昇）みる。	薬の副作用で骨髄抑制が起きるとこれらの値が低下する。	
RBC	赤血球	貧血がないかみる。リウマチの活動性が高いと貧血傾向になる。		
Hb	ヘモグロビン			
PLT	血小板	出血傾向をみる。リウマチの活動性が高いと高値となることがある。		
赤沈 (1 時間値)		リウマチの炎症の程度をみる。		
尿 検 査	PRO	尿たんぱく	尿中にたんぱく質が出ていないかみる。	アミロイドーシスや薬による腎障害が起きると（+）になる。
	GLU	尿糖	尿中に糖分が出ていないかみる。	糖尿病の状態をみる。
	BLD	尿潜血	尿中に血液が混じっていないかみる。	副作用で血尿になることがある。ある種の薬では尿の色調の変化により（+）と出ることがある。
BUN	尿素窒素	腎臓の機能をみる。	腎臓や肝臓は薬の副作用が無い、又は薬が使えるかを判断する。	
Cre	クレアチニン			
UA	尿酸	尿酸値が高い病気に痛風がある。		
AST (GOT)		肝臓の機能をみる。		
ALT (GPT)				
γ -GTP				
TP	総たんぱく	血中のたんぱく質の量を表す。		高コレステロール血症の状態をみる。
TC	総コレステロール	血中のコレステロールの量を表す。		
HDL-C	善玉コレステロール	善いコレステロールと悪いコレステロールの量をみる。		
LDL-C	悪玉コレステロール			
TG	中性脂肪	血中の脂肪の量を表す。	高脂血症の状態をみる。	

FBS	血糖	空腹時の血糖値を表す。	糖尿病の状態をみる。
HbA1c	グリコヘモグロビン	過去1ヶ月間の血糖の平均を表す。	
検査項目	日本語訳	検査の意味	ポイント
CRP	C反応性タンパク	リウマチの炎症の程度をみる。リウマチ以外でも、全身どこかで炎症（感染）が起きていると上昇する。	診察で一番良く聞く値。
MMP-3	マトリックスメタプロティナーゼ-3	炎症の程度をみる。関節の炎症をみるので、リウマチによる関節破壊の程度が分かる。	CRP、赤沈1時間値と合わせてリウマチの炎症の程度を判定する。
RF	リウマトイド因子	陰性でもリウマチの方はいる、陽性でもリウマチでない方もいる。	診断基準の一つ。
抗CCP抗体	抗環状シトルリシ化ペプチド抗体	リウマチに特異度が高く、診断やリウマチのタイプを知る助けになる。	リウマチ診断基準の一つ。
β -Dグルカン		高いとニューモシスチス肺炎などの特殊な感染症の可能性がある。	
KL-6		高いと間質性肺炎の可能性がある。	

※他病院を受診する時に、お渡ししている検査結果をお持ちいただくと診断の助けになる場合があります。



「これってなんだろう」

「こんな時どうしたらいいのだろう」

など思われる事がありましたら、

診療時間内に、下記まで

お問い合わせください。

電話：0254-22-3121（代）